



平成 20 年頃東海大生

和
田
ユ
イ
子
さん

昭和 9 年生まれ 金内



昭和 9 年生まれ 金内

4

有機の人

今から41年前の昭和52年に、旧矢部町で「第3回有機農業全国大会」が開催されるなど、早くから山都町では有機農業が盛んです。この有機農業に関わる「有機の人」を紹介しています。

「百姓大好き」

和田ユイ子さんが出荷する野菜の袋には、「百姓大好き 和田ユイ子 1977年有機農業開始 現在に至る」のラベルが貼られています。

「田畑に出ると元気になります。消費者の方からは、『和田さんの物は』昔ながらの、体に優しい自然な味ですね」と言われます。

昭和32年に亘之（のぶゆき）さんと結婚した当初は、酪農と一緒に営んでいました。昭和38年に酪農をやめて亘之さんが中島森林組合（当時）に勤めると、一人で農業をするようになります。

「二人で農業をしていたら、自分の思うようには出来なかったでしょう。一人でやっていたから好きに出来たのです。」

昭和40年代後半から、矢部町農協組合長（当時）の佐藤明雄氏や、熊本大学医学部の竹熊宜孝（たけくま よしたか）氏※注 が、有機農業を提唱し始めます。



和田亘之さん、ユイ子さん

そのような中、県内で「いのちと食べ物を考える会」が発足、3人の子どもを持つ母親として共感し、活動に参加します。「有機農業は理想でした。飯屋幹治さん達の有機農業者のグループ、「三葉会（みづばかい）」にお世話になりました。有機農業に没頭していききました。」

べてやりたいのです。」

※注…竹熊宜孝氏：公立菊池養生園診療所名誉園長

氏は、医師として医療に携わる一方で、「医療は食から、食は農から、農は自然から学べ」という信念に基づき実践を精力的に行う。食育活動の草分け的な存在。近年は、「食育」をさらに発展させた「食農育」の普及・啓発に尽力され、精力的に活動されている。著作「土からの医療」他多数。



自家採種 40 年以上のトマト



加工所のたくさんの漬物

次号「有機の人」は、農協職員としてアイガモ農法による米栽培の普及に取り組まれた荒木秀幸さんを紹介しています。